

ふくい 社会福祉

2019
9
No.438

Fukui Social Welfare

写真で振り返る「プレイバック平成のボランティア③」 ふくい車いすマラソン（平成元年～15年）



※特集に関連記事

※前回（7月号）と今回号の表紙写真の一部は、坂井市社会福祉協議会からご提供いただいたものです。ご協力に感謝申し上げます。

CONTENTS

2,3P

特集

ボランティア活動の変遷で振り返る“平成”

テーマ：「スポーツとボランティア活動」

まち・ひと・キラリ 佐竹 了さん

4,5P

報告

- ◆まごころ基金助成決定
- ◆子どもの居場所づくりフォーラム開催報告
- ◆ブロック老人福祉施設研究大会開催報告
- ◆親子介護体験バスツアー開催報告

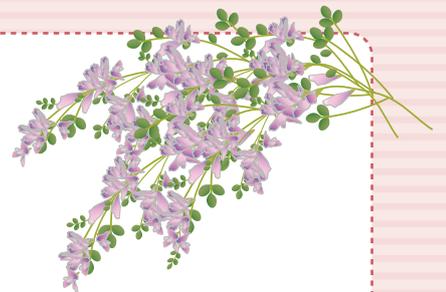
6,7P

社協 TOPICS

- ◆「ボランティア発、つながるメッセージ 発信!」ラジオ番組のご案内
- ◆福井県社会福祉大会のご案内
- ◆ソウェルクラブ加入のご案内

8P

- ◆寄付・寄贈
- ◆ふくい健康長寿祭 2019 のご案内



令和元年度特別企画 ボランティア月間制定30周年記念

「ボランティア活動の変遷で振り返る『平成』」

9月号テーマ「スポーツとボランティア活動」

令和元年度に「ボランティア月間制定30周年」を迎えるにあたり、毎号さまざまな切り口から平成のボランティア活動を振り返っている特別企画の第3弾。今号では2020年の東京オリンピックを控え、いっそう盛り上がりを見せている「スポーツとボランティア活動」を取り上げました。

スポーツのユニバーサル化

我が国は、健康志向の高まりや余暇時間の増大、スポーツの楽しみ方の多様化から、健康づくりや交流の場として老若男女に生涯スポーツが普及するようにになりました。平成30年度にスポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査」では、「成人の週1日以上以上のスポーツ実施率」は55.1%となっています。

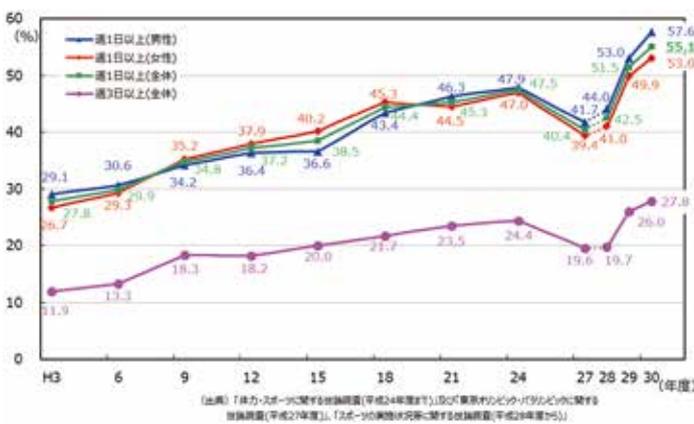
また、メディアの発達でオリンピックやワールドカップなど国際的なスポーツ大会の観戦や日本人の世界レベルでの活躍などを応援する「観戦・応援するスポーツ」としての興味・関心も高まっています。

最近では、車いすテニスや車いすバスケットなどパラリンピックで活躍する選手が増えたり、障がい者スポーツがテレビドラマの題材にされたりしたこと

で障がい者スポーツも世間で知られるようになりました。

そして、本県においては昨年度、「国体と全国障害スポーツ大会の融合」を掲げた「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」が成功をおさめ、スポーツを通じて共生社会を目指す新しい姿を全国に発信することができました。

成人のスポーツ実施率の推移



スポーツを支えるボランティア

平成は、スポーツの普及や振興とともに、スポーツを支えるボランティアが広く社会に認知されるようになった時代ともいえます。前述のスポーツ庁の世論調査でも、「この1年にスポーツに関するボランティアに参加した割合」は10.6%となっており、内容としては、「大会・イベントの運営や世話」が最も多くなっています。昨年度の「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」でも多くの県民が運営支援ボランティアとして活躍したことは記憶に新しいところです。

また、大会運営のボランティアのように単発的な関わりだけでなく、地元の子供や若者のコーチやマネージャーなど、日常的に関わるボランティア活動もあります。

このようにスポーツへの関わり方も「する・見る」から「支える」へと広がりをみせています。

そこで、本県におけるスポーツを支えるボランティアの広がりを実感できるものとして、「ふくい車いすマラソン」と「菊花マラソン」の伴走ボランティアについて触れてみます。

◆ふくい車いすマラソンを支えたボランティア

「ふくい車いすマラソン」は、本県が平成元年3月に北陸初となる車いすマラソン大会を開催したものであり、福井運動公園周辺のコースで5kmの部と2kmの部を設けて実施しました。

この時の出場者数は健常者を含む97名で、運営に協力したボランティアは学生や企業、民生委員、一般の方約200名でした。その後、平成5年には10kmコースを新設、さらに平成11年には、会場を坂井郡丸岡町（現坂井市丸岡町）に移し、まるお古城マラソン大会に車いす部門を新設し、県内競技者の念願だったハーフマラソン（公認コース）が実現しました。この実現の裏には、県内関係者の尽力はもちろん、コースの安全確保や選手の介助・誘導等で大会の運営を支える多くのボランティアの協力があつたことはいまでもありません。

◆菊花マラソンでの「伴走ボランティア」

また、スポーツボランティアの一つに「伴走ボランティア」があります。主に視覚障がい者のマラソンで、一緒に走り、障がい者ランナーの目となり、安全に走れるようにサポートするものです。

越前市で毎年行われている菊花マラソンでは、平成14年に武生第三中学校（以下、「武生三中」という。）生徒による伴走ボランティアがスタートし、今では近隣の中学生にまで活動が広がっています。

〈まち・ひと・キラリ☆〉

キラリワード：伴走ボランティアが学ばせてくれること

今回は、菊花マラソンでの中学生伴走ボランティアを武生第三中学校で始めた佐竹了さんにお話を伺いました。

伴走ボランティアのきっかけは、私が立ち上げた花はす早朝マラソンでの伴走者をランナーの所まで誘導するというボランティアをお願いした方からの「ドキドキしたが、とても良い経験なので来年もやりたい」という言葉でした。



佐竹 了さん

私は当時教育委員会職員でしたが、このような体験を生徒達にも体験させたい、さらには伴走のボランティアの体験をしてもらいたいと考え、武生三中へ職員として赴任してから実現に向けて動き始めました。

しかし、当時は一教員だったので校長への説得や、「ケガをさせたらどうするのか」という保護者からの不安の声への対応で苦労しました。それでも、生徒の参加したい気持ちや協力してくれた保護者と熱心な説得により実現することができました。

実際に伴走ボランティアを終えると生徒達はとても清々しく、達成感に満ちた様子でした。話を聞くと生徒達はたくさんのごことを学んでいたのです。「自分が目になるつもりで走っていたが、視覚がなくても触覚や聴覚などを駆使してさまざまな情報を得ているランナーとふれあうことで障がい者の方への考えが覆った。」と感動している子もいました。そして、生徒だけではなく、伴走をしている自分の子の成長した姿に感動している親もいました。

この菊花マラソンでは伴走ボランティアだけではなく、「私たちも何かやりたい。」という気持ちから、吹奏楽での応援隊『勝手に応援隊』も生まれました。



地元の運送会社がボランティアでトラックを貸してくださり、ランナーを励ますのですが、逆にランナーの演奏への拍手で励まされていました。ボランティアは一方的に支えるだけではなく互いに支え合うものだと実感する場面

でしたし、生徒たちもそう感じていました。

私は今もこの伴走ボランティアや『勝手に応援隊』のサポートを行っています。主体的に指導・育成を行っているのはこの活動を経験した卒業生たちです。ボランティアなので当初から一切強制はしていませんが、彼らが伴走しているときに沿道の市民やランナーから声掛けやハイタッチをされたりと、応援されること、交流することの気持ちよさを体感することで積極的に活動を続けていくことにつながっています。そして、地域も活性化されるなど、ボランティアは地域の人づくりであり、まちづくりにもつながっていることを感じています。



伴走はランナーを安全にサポートしなくてはいけないため、周囲の状況をランナーにわかりやすく伝えたり、ランナーが走りやすいよう、腕や足を振るリズムを合わせたりする練習も必要です。武生三中

では、これを福祉教育の一環として取り入れ、生徒に指導する中で伴走ボランティアを実現させました。このボランティアでは、支える側だと思っていた生徒達が、逆にランナーから励まされることで、互いに支え合うことの大切さに気づいた生徒もいたようです。参加した生徒達もこの取り組みを楽しんでいることもあり、伴走ボランティアは今でも希望者が多く、継続して取組まれています。伴走ボランティアを経験した生徒達が卒業生として指導にあたり、この活動が受け継

がれているのです。そして当初は少なかった視覚障がい者ランナーも、中学生による伴走ボランティアの話を聞きつけて県外からエントリーする参加者も増えたといえます。まさにこのボランティア活動が子どもたちへの福祉教育だけでなく、大会の盛り上がり、次代へのボランティア意識の継承へとつながっているのです。

スポーツを通じて支え合う意識を

スポーツボランティアは、選手のサポートをしたり、逆に選手の頑張る姿

に感動したりするなど、どちらかが一方的に支えるのではなく、互いに支え合うという大切さを体感できます。この互いに支え合うという精神は、スポーツに限らず地域づくりにおいても重要です。

「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」では、多くの県民がスポーツを通じて支え合う意識を体感しました。こうした融合がこれからの地域共生社会づくりへの大きな一歩になり、「融合元年」として語り継がれることを期待します。

【参考】

スポーツ庁HP (<http://www.mext.go.jp/sports/>)

福井国体HP (<https://info.pref.fukui.lg.jp/fukuikokutai2018/>)

令和元年度（第29回）福井県まごころ基金助成事業助成団体が決定

「福井県まごころ基金助成事業」は、県内の地域福祉を推進することを目的に、さまざまな社会福祉事業や活動に対して助成を行うもので、平成3年以降、延べ951団体に対して、総額1億7千万円を超える助成を行ってきました。今年度は、8団体に合計1,155,000円の助成が決定しました。

（令和元年度（第29回）福井県まごころ基金助成事業助成団体）

区分	No.	申込団体名	事業名
(1)子ども（高校生以下）の福祉向上を通じた取組	1	親子関係支援グループやまりす	家族再統合基礎セミナー
	2	withふくい	地域の居場所づくりを通じた予防的支援事業
(2)障がい者（児）の福祉向上を通じた取組	3	福井県車椅子の会	2019車いすスポーツフェスタ
	4	特定非営利活動法人くまっこクラブふくい	障害のある子どもたちと一緒にレッツ・カラフィット事業
	5	特定非営利活動法人エンジェル・キッズ	地域における交流事業
(3)地域全体の福祉向上を通じた取組	6	美浜・楽しい大人製作所「みんなの学校」上映会実行委員会	映画「みんなの学校」上映会&元大空小学校校長・木村泰子氏講演会
	7	ハスの実の会（後援会）	障害のある人たち、支援する人たち、高校生、ボランティアとの「うた創り合宿」事業
	8	特定非営利活動法人福井県手をつなぐ育成会	育成会セミナー「安心して暮らせる地域社会 ～家族の想い、地域との絆～」

子どもが地域の中で安心してすごせる居場所を「子どもの居場所づくりフォーラム」開催

去る8月1日、福井県自治会館において子どもの居場所づくりについて考えるフォーラムを開催し、約200名が参加しました。

はじめに社会活動家で東京大学特任教授の湯浅 誠氏が講演し、「公的なサービスやサポートは必要だが、自分らしくいられる居場所は、ご近所同士のような私的な関係の中にある」ことを、事例を交えて話されました。

また、市民活動による学習支援にも触れ、「『自分は子どもに勉強を教えることができない』とよく聞かすが、勉強を教えることだけが学習支援ではなく、子どもが自分で考えることを促すようなことも学習支援である」と話し、「学校での『名のある教育』と、地域における『名のない教育』の両方によって子どもが育つ」ことを示唆されました。

シンポジウムでは、湯浅氏をコーディネーターに、越前市で「みんなの食堂」を運営する野尻 富美氏、福井市でフリースクール「福井スコール」を運営する小野寺 玲氏、越前市の児童養護施設・児童家庭支援センター「一陽」の霜 大輝氏から実践報告がありました。

現在、7人に1人の子どもが貧困と言われ、経済的なことに限らず社会的なつながりも薄まり、さらなる貧困につながることを指摘されていますが、地域の中に自分らしくいられる「居場所」があり、いろいろな人と出会い様々なことを体験することで、豊かな育ちにつながることを期待されます。

県内では現在、約30ヶ所の子ども食堂が活動していますが、このような取組が今後も展開されることを期待します。



湯浅 誠氏による講演



県内活動者3名による実践報告

東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会 報告

去る7月18日(木)～19日(金)、「令和元年度東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会」(福井大会)が「最後の瞬まで、自分らしく生きられる社会へ ～私たちは、地域とともに歩み、地域を支え続ける～」をテーマに福井市で開催され、東海北陸ブロック6県1市より、老人福祉施設等の関係者1,000名が参加しました。

初日の全体会は福井市のフェニックス・プラザにて行われ、主催である福井県老協の皆川恭英会長(全国老協副会長)による開会挨拶に続いて、南谷憲児福井県健康福祉部副部長、東村新一福井市長から来賓のご挨拶をいただきました。その後、全国老協の木村哲之副会長による基調報告、医療法人至捷会木村病院の木村加奈子先生から特別講演をいただきました。

2日目は8つの分科会に分かれて、テーマごとに事例発表と質疑応答が行われました。特に第5分科会では介護施設で起こりうる様々な事故・災害、中でも介護事故への対応についての講義、解説の後に、より深く参加者が課題解決の方法を共有するため、他の分科会の運営方法と異なり、グループワークによる個々の事例検討を実施して、リスクマネジメント対策について施設ぐるみの取組みのあり方を検討しました。



親子体験風景



さらに、福祉用具や介護用のリフトの活用等、腰痛にならないための施設独自の工夫等、長く仕事を続けることができるといえるような取り組みを教わりました。昼食時には、福井県民生活共同組合の協力のもと、「夕食宅配」のお弁当を食

夏休みの期間中に、小学校4～6年生の親子を対象に、介護現場の職員から直接体験談を聞いたり、介護技術に触れ、介護のおしごとの魅力に目を向けてもらうことを目的に昨年に引き続き、バスツアーを実施しました。7月26日(金)の奥越コースを皮切りに、県下全7コースがスタート。日頃訪問する機会の少ない高齢者施設では、職員から仕事のやりがいや内容を聞いたり、認知症の方への接し方についてのお話を聞きました。また、浴室や共有スペースなどの説明を聞く、すぐにメモをしたり説明の箇所を覗き込むなど、学ぶ姿勢がとても積極的でした。子どもがお父さんを楽々と寝返り介助ができて喜んだり、お母さんを車いすに乗せて移動したり、特殊なメガネや手足に重り付けて歩き高齢者の「見えにくい」「動きづらい」といった感覚を親子で疑似体験しました。

申し込み多数で大盛況!! 親子で介護のおしごとと魅力発見!バスツアー



べながら、高齢者への配慮や地域での見守り活動についてのお話を聞きました。参加した子ども達からは、「利用者さんとゲームをしたり交流が楽しかった」「車いす介助時に声をかけるのが大事だと感じた」などの感想が寄せられました。

【参加者インタビュー】

介護のおしごとの魅力は?

☆人と人のつながりが持てて感謝されること。

☆利用者さんが、その人らしく笑顔で過ごすができるといえるお手伝いができる仕事はすてきだと思う。

☆様々な職種の方が連携するやりがい。

☆介護のおしごとに対する印象の変化は?

☆とても生き生きと職員の方が働いている様子やおしゃれな施設があると

いうことを知った。

☆介護の記録もiPadで管理されるなど

IT化していると気づいた。

☆知らなかった介護の現場を親子で見学

体験できて、家族への理解も深まり、共通の会話もできた。

今年度の参加者は、親子51組107名の参加

があり子ども達には、「福井県子ども介護士免許証」を授与されま

した。

「バスツアー受入事業所」

- ▼福井① 県民せいきょう羽水きらめき・きたえる～む福井文京
- ▼福井② リハビリセンタートレフル・モアヤング
- ▼坂井 プライムハイツ春江・トゥモロズホームリハビリセンター坂井
- ▼丹南 県民せいきょう鯖江きらめき・第3和上苑
- ▼奥野 県民せいきょう大野きらめき・聖和園
- ▼敦賀 ほとと地域リハビリセンター敦賀・深山荘
- ▼小浜 県民せいきょう小浜きらめき・もみじの里

ボランティア月間制定30周年&「つながれボランティアの輪」推進運動10周年記念事業 「ボランティア発、つながるメッセージ 発信!」ラジオ番組のご案内

本会ではボランティア活動の啓発の一環として、毎年9月をボランティア月間としています。この期間中の取り組みとして、今年は、県内各地で行われているさまざまなボランティア活動を、FBCラジオの10分番組にて平日毎日紹介します。番組では、さまざまなボランティアの方に出演いただき、活動の内容や魅力、やりがいなどを直接語っていただきます。ぜひお聞きいただき、いろんなボランティア活動を知ってください!

放送局 FBCラジオ AM 嶺北864kHz 嶺南1557kHz FM嶺北94.6MHz 嶺南93.6MHz

放送日 9月中の月～金曜日(ただし祝日を除く)

開始時間 午前11時20分から同11時30分(多少前後します。)

出演者 県内17市町のボランティア活動者、関係者

内容 県内各地で行われているさまざまなボランティア活動の内容や魅力など

※radiko.jp(ラジコ)でパソコン、スマートフォンからもお聞きいただけます。

その他、同じく啓発の取り組みとして、県内各ケーブルテレビ局で9月中、1分間CMを複数回放送します。

◆サマーボランティア体験実施中

引き続きサマーボランティア体験事業も9月末まで実施しています。ボランティア活動を体験してみたい方、興味がある方、200以上のさまざまな活動プログラムがありますので、ぜひお問い合わせください。(ホームページにも掲載しています。)

問合せ先 福井県ボランティアセンター TEL0776-24-4987

Eメール volunt@f-shakyo.or.jp HP <http://volunt.f-shakyo.or.jp/>

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成31年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ			
賠償責任	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

第66回福井県社会福祉大会

入場無料

日時 令和元年11月2日(土)
13:30~16:30

場所 福井県生活学習館
(ユ-アイふくい「多目的ホール」)

【プログラム】

13:30	14:30	15:00	16:30
式典(第1部)	式典(第2部)	記念講演	

【記念講演】 <一般の方もご来場いただけます>

「**出会い 別れ そしてめぐり逢い**」
齊藤 とも子 氏 (女優/社会福祉士/介護福祉士)



兵庫県神戸市出身。10代からテレビ、映画、舞台で活躍。1999年、東洋大学社会学部社会福祉学科に合格。母親を亡くした少女時代の周囲の人たちのサポートのこと、阪神大震災の体験談、被爆者の方々との触れ合いなど、これまで様々な人々と関わってこられた経験を持つ。また、現在は、女優業のほか、生活のために「介護福祉士」としてデイサービスでも働いており、誰もが様々な出会いや縁によって生かされていることを感じている。これらの多岐にわたるご経験を元にご講演をいただきます。

主催：福井県社会福祉協議会
共催：福井県共同募金会
後援：福井県 福井県市長会 福井県町村会

<問合せ先> 福井県社会福祉大会開催事務局
総務施設課 総務グループ TEL0776-24-2339



福祉・介護職員の福利厚生は

ソウェルクラブにおまかせ!

優秀な福祉・介護人材の確保・定着、心身のリフレッシュ、ストレスの解消など魅力ある職場づくりにぜひ、「ソウェルクラブ」をご活用ください。

ソウェルクラブの仕組み(加入要件)

- **契約対象者** 社会福祉事業または介護保険事業を経営する者
- **加入対象者** 社会福祉事業等を経営する法人内の役職員全員 (非常勤職員を含む)
- **掛 金** 1人当たり毎年度 **1万円**
※非常勤職員は、1万円もしくは5千円 (指定するサービスのみ利用可) の選択制

加入のメリット

- **契約対象者**
 - ・会員数**26万8千人**(2019年4月現在)のスケールメリットを最大限に活かし、法人単独では実現できないサービスを提供
- **多種多様なサービスの提供**
 - ・女性にも男性にも、若い人にも年配の人にも、家族でもご利用いただけるサービス
 - ・会員交流事業など、それぞれの地域ニーズに合ったサービス
 - ・社会福祉関係者のための、職場で役立つ講習会
 - ・職員個々人の選択の幅が広がるサービス
- **魅力ある職場づくり**
 - ・職員の心身のリフレッシュやストレス解消
 - ・職員の就労意欲の高揚
- **質の高い人材の確保・定着**
 - ・福祉・介護の職場への就職に当たっては、福利厚生の充実が、賃金や労働時間の次に重要な選考ポイント



離職率の比較

(出典) ●全産業平均と福祉分野の離職率は、厚生労働省労働市場分析レポート第21号(平成25年10月29日)のデータ ●ソウェル加入法人の離職率は、平成26年4月1日現在の会員のうち26年度中に退会した会員(契約解除による退会を除く)の割合

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

寄付 寄贈

♥7月5日(金)

- 寄付者** 地域福祉を考える女性の会 会長 高畑 和子 様(福井市)
- 寄付金** 22,658円
- 寄付先** 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会



♥7月22日(月)

- 贈呈者** KDDI株式会社北陸総支社 様(石川県金沢市)
- 寄贈物品** 車いす10台
- 寄贈先** 愛寿苑デイサービスセンター(福井市)
さくらが丘デイサービスセンター(福井市)
デイサービスセンターモアヤング(福井市)
コンフォートガーデン木村デイサービスセンター(あわら市)
ことぶき荘デイサービスセンター(鯖江市)
デイサービスセンターアオシス(越前市)
総合支援センターわかたけ(越前市)
ほっとプラザデイサービスセンター(池田町)
南越前町いきいきデイサービスセンター(南越前町)
溪山荘デイサービスセンター(敦賀市)



サキドリ情報

ふくい健康長寿祭2019 ～生きがい・健康づくりイベント～



いつまでも健康で生きがいのある充実した生活が過ごせることを目指して、ふくい健康長寿祭2019を開催します。ぜひご家族でご来場ください。

- 日時** 令和元年9月21日(土) 9:30~15:30
- 会場** あわら市中央公民館(あわら市市姫1丁目9-18)

【イベント内容】

体験する!

健康チェックコーナー 1階 体育館

自分の体の状態をご存じですか?
栄養、日常生活動作、姿勢等さまざまな角度から
チェックしてみましょう。

- 骨密度検査
- 呼吸機能検査
- 血管年齢測定

など体験できます。

無料



手作り体験コーナー 2階 第1会議室

選べるクラフトづくり、気軽に体験してみませんか。
(1F総合案内でチケットを配布します)

無料



タイルクラフト



押し花



くみひも

見る!

趣味の作品展 1階 多目的ホール

高齢者による日本画、
絵画、書、彫刻の展示
作品数:約60点



体験する!

軽食コーナー 1階 エントランス前

〇やきとり 〇やきそば、もち 〇パン、お菓子



問合せ先: 地域福祉課 いきがい長寿グループ TEL0776-24-2433